

学校教育目標	自ら学び、考え、発信する 子供の育成		尾道市立美木原小学校
--------	--------------------	--	------------

a ミッション	小中連携を核とした確かな学力定着の取組の継続と発展	a ビジョン	○児童の主体性を育み、未来につながる学力をつける学校 ○幼・小・中の連携による学びの連続性を大切にする学校 ○家庭・地域とともに、子供の育ちを考える学校
---------	---------------------------	--------	--

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案	
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ			
学びを創る	「考える伝え合う力」の育成	論理的思考力の向上	①フレームリーディングによる「読むこと」の指導 ②思考ツールの活用	単元末テスト・学期末テストの平均通過率(国語科 思考・判断・表現の観点)	全国平均以上(83.6%)	88.5%		106.0%	A	全学年が全国平均を1ポイントから10ポイント上回り、目標は達成できた。フレームリーディングを手法とした読むことの指導や全教科・領域を通して思考ツールを活用し、思考の流れをつくる取組を行った。学習したことは身に付けてきている。しかし、低学年においては、汎用的な力を見取る学期末の説明文テストで、発問内容を正しく理解できていないC評価の児童が数名いた。高学年においては6月の全国学力状況調査の結果から、長文から読み取ったことをもとに、複数の条件で書くこと、言葉のつながりや文章構成を考えて書くことができていないという課題が見られた。	2			一人一人個性があり、得意不得意もある中で、教え、育て、力をつけていくことは難しいと思います。少しでもいいところを見て、褒めてやってください。 結果を焦らないうで、コツコツ積み重ねて指導していけば上方へつながります。 論理的思考力について、低学年・高学年において取り組むべき課題があるものの、全国平均が達成できている。	フレームリーディングによる読むことの指導を継続し、授業改善を図る。また、各教科・領域で思考ツールを活用する活動を増やして定着を図る。自分の考えを論理的に記述させる機会を授業内に取り入れていく。また、NIEタイム等を活用し、複数の条件を与えて書かせる言語活動を仕組む。
生活を創る	児童自らが学校生活を創る特別活動の充実	自己有用感の向上	①児童会とコラボレーションした委員会活動や名人表彰 ②よりよい生活作りへの参画	自己有用感に関するアンケート(肯定的評価)	上半期75% 下半期85%	90.2%		120.2%	A	「自己有用感の向上」については、達成値90.2%と目標値より10ポイント以上上回った。児童会とコラボレーションした委員会活動や名人表彰により、学校生活に参画し主体的に活動することで、「自分達で創る」意識が高まってきている。しかし、学年別で見ると、5月当初より低下している学年が見られた。中でも、自己肯定感の項目について減少が見られた。	1	1		何かの形で自分の出番があって、認められる経験が大事。児童会の活動や縦割り班の活動等で発揮できれば...。 方策①②に積極的に参加できる目立つ子どもだけでなく、おとなしい子、自己表現の得意な子でも存在価値を見出していけるような取組も必要と感じる。	「名人表彰」の活動と「ありがとうカード」の取組を継続する。1学期には低い傾向にあった低中学年の自己肯定感の向上に向けて、低中学年から企画運営した高学年に「ありがとう」を伝えるだけでなく、高学年から低中学年にも「ありがとう」を伝える活動を取り入れていく。また、縦割り班活動の充実を図り、お互いを認め合えるような交流の場を今後も実施していく。
働き方改革	豊かな教育活動の充実	よりよい働き方による超勤時間の減少	①セルフタイムマネジメントによる働き方(月1回以上) ②分掌部会における業務改善の発案	超勤時間の平均	4.5時間以下90%以上	91.1%		101.2%	A	よりよい働き方による超勤時間の減少は達成値91.1%と目標値を上回ることができた。限られた時間の中で優先順位を付けたり、効率化を図ったりしながら取り組むことができた。PCを用いてその場ですぐに修正や編集を行う会議の持ち方など、業務改善の発案も毎月行うことができた。 しかし、分掌や担当の振り分けを行っても、負担の偏りが見られることもあった。また、4月当初や成績処理の時期など、超過勤務になりやすい時期もあった。	1	1		先生方が心身ともに健康で働けますように。今の異常な状態が落ち着く日は来るので、ヘコタレしないで！ 効率化の取組の中で、教育の質についての変化(どのようなことが問題となっているのか)が分かりにくい。当校のような小規模校では、職員の数も限られるため、働き方が教育の質に影響しやすいと思う。そのため、働き方改革で生じている問題点を把握していただきたい。	行事計画を見直し、取りかかりをより早めたり、具体的な案を持って計画を進めたりしていく。また、業務に優先順位をつけ、先を見越して遂行し、超勤になりにやすい時期に時間を確保していく。 効果的にカリキュラムをマネジメントしたり生み出した時間を子どもに向き合う時間に活用したりすることを意識して教育活動に当たっていく。取組の成果に全職員が満足感を得られる働き方改革となるよう、各自の感想や発案を活かしながら推進していく。

【自己評価 評価】 A: 100 ≤ (目標達成) B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100 C: 60 ≤ (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。ハ: わからない。